

～ 沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動 ～

草の根ニュース

■本部(東京) :〒150-0042
東京都渋谷区宇田川町19-5 山手マンション1001
■沖縄連絡先 :池宮城紀夫(弁護士)
沖縄県那覇市樋川1-16-38 那覇第1法律事務所
■電話・ファックス :03-3461-5758 090-4175-2010(平山基生)
■メール :kusanone@world.ocn.ne.jp
■ホームページ :http://www.kusanone.org
■郵便振替口座 :00190-5-611535 (主権回復カンパ 随時大歓迎)

沖縄県新知事に翁長氏 辺野古新基地阻止など「オール沖縄建 白書」を不屈に貫き「沖縄の誇り」守る。 各地草の根で前進しているオスプレイ 反対をふくむ署名運動を更に全国で 推進し、新知事と沖縄県民を「日本 沖縄」全国民の「誇り」で支えましょう

総選挙で再び新基地

ノー 12月14日投票(続報)

沖縄県4選挙区で自民候補全
敗、オール沖縄候補赤嶺、照

屋、玉城、仲里当選。基地をなく

す政党も躍進。共産八から二一、社民

二、生活二議席。自公三二五議席。

2014年11月16日、投票時間終了直後、NHKは、翁長雄志前那覇市長の沖縄県知事選挙当確を報じました。新基地建設に反対するオナガ氏が新しい沖縄

県民の顔になったことを、示した瞬間でした。那覇市の基地をなくす政党の選挙事務所は、歓声に沸き立ちました。そこには、高齢者も若者も女性も男性も、うちなんちゅ(沖縄県民)もやまとうん



当選した翁長雄志沖縄県新知事

ちゅ（本土国民）も同席していました。小さな事務所に満員の人びとが詰めかけていました。続いて、那覇市長にオール沖縄うまんちゅの会の女性候補城間幹子さんが那覇市長選挙空前の10万の得票で当選したことが報じられました。

この沖縄県における政治的闘いは、けっして沖縄県だけの問題ではありませんでした。沖縄県は日本の一県です。沖縄県に百年2百年もつ新米軍基地を作らせるかどうかは、日本沖縄をほぼ永久に米軍占領下に置くことを許すかどうかの闘いでしたし、その闘いは今も続いています。「沖縄の命運を決める知事選挙—安倍政権に痛撃を！」沖縄県の著名な市民派弁護士で、「草の根ニュース」恒例執筆者、草の根運動共同代表の池宮城紀夫弁護士は、このように書き次のように続けています。「沖縄県知事選挙が、11月16日投開票と目前に迫った。今回の最大の争点は、名護市辺野古

海域を埋め立てて新基地を建設し、普天間基地を移転する日米政府の政策に反対している74パーセントを超す県民世論の現実を踏まえ、『辺野古新基地反対か賛成か』である。」「仲井真氏は、4年前『普天間基地は県外移設』と公約しながら、安倍政権に懐柔されて去年（2013年）の12月に辺野古の埋立承認をした。県民から『裏切り者』と、今もって糾弾されている。そのような人物を当選させるようでは、沖縄も終わりだ。」と。

沖縄県民は「沖縄の誇り」を守りました。翁長氏36万票、仲井真氏26万票は、大差ではありません。しかし、「裏切り者」に26万票が投じられたことは、基地をなくす勢力が、決して油断してはならないことも示しています。新基地建設を許さないだけでなく、全基地を閉鎖して、日本沖縄の主権を回復し属国日本を独立日本に変える本当の闘いは、今スタート時点にたったことを示しています。

沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動は、沖縄県知事選をどう闘ったか

「オスプレイ反対普天間基地閉鎖および辺野古・高江新基地建設反対署名」をひろげ

草の根運動は「草の根ニュース」で、つぎのように訴えました。「金力と権力に勝る自民党安倍政権の代弁者仲井真候補は、いささかも侮ることはできません。僅差でも彼らを上回り、勝利するためには、全日本国民に、『オスプレイ反対普天間基地閉鎖および辺野古・高江新基地建設反対署名』をひろげ、沖縄県で行われている、日米政府による民主主義を踏みにじり戦争への道を準備し、永久属国日本しかも『侵略的属国日本』への道を固めようとする『政府の行為』を知らせ、大多

数の国民を団結させて、新基地反対の翁長雄志氏を沖縄県の顔に押し上げることです。」

「沖縄県政治戦勝利と合わせて、署名運動を飛躍的に発展させましょう。政治戦支援カンパを集めましょう。辺野古へ行ける方は、1日でも半日でも辺野古での新基地反対活動に参加しましょう。全国各地での『集団的自衛権』反対、9条守れ、秘密保護法反対の運動と合わせて、現在の政治の焦点である沖縄県辺野古に新米軍基地を作らせない、闘いに参加しましょう。」

草の根ニュース84号 2014年12月28日 2015年は米軍の日本沖縄占領70年 号 占領70年の2015年を主権意識目覚めの年に
「平和的で責任ある政府が樹立されたとき、連合国の占領軍は、直ちに日本国から撤退しなければならない」(ポツダム宣言)。「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」(憲法前文)

基地なくす政党議員への手紙

草の根運動は、「草の根ニュース」や「基地なくす九条しんぶん」で、全国の会員へ沖縄県知事選の重要性を訴える一方、共産党、社民党、新社会党、沖縄社会大衆党などの基地をなくす政策をもつ政党の国会議員へ、

「草の根ニュース」などを送り、沖縄県知事選の重要性を訴えました。その内容は次の通りです。

基地をなくすことなど 主権者国民のために日夜献身されている御党など

国会議員 様

貴党とあなたの日頃からの、主権者国民のためのご活動に心から敬意を表します。

この9月7日には、沖縄県名護市議会議員選挙投票が行われました。

また、この11月16日は、沖縄県知事選で翁長おなが雄志現那覇市長を新基地建設を阻止する「オール沖縄」の県知事に当選させるために、すでに闘いは始まっています。本年1月の名護市長選に続き、全国国民の署名運動(同封用紙もお使いください)、激励文や貴重なカンパ、人の派遣など手厚いご支援を重ねてお願いを申し上げます。

なぜなら、この闘いは、沖縄県民に連帯する闘いという以上に、私たち日本国民が「集団的自衛権」行使容認という憲法破壊の安倍内閣と真正面から向き合って闘う、私たち自身の闘いであって、死にもぐらうで、しかし歴史的には確信を持って悠然と闘い抜かなければならない国民的憲法的総力戦の闘

いであるからです。

名護市長選では、尊いご支援があったため、凶暴な日米基地権力が総力を挙げて後押しした「新基地建設」支持の自民党候補に、大差で勝利することができました。珠玉の様な貴重な勝利でした。しかし、今すでに闘いが始まっている沖縄県知事選も、いささかの油断も許されない厳しい闘いです。金力権力企業ぐるみの組織力、そして何よりも産軍共同体・米政府の全力を挙げた後押しがあるからです。

安倍内閣打倒の闘いの緒戦の勝利へのご支援を心から深くお願いいたします。

さて、来年2015年で、米軍による日本占領は、70年になります。そのあと30年で米軍占領100年になります。

日本歴史上かつてなかったこのような長期の外国軍隊の占領は、さまざまな基地問題を引き起こし、在日沖米軍によって遂行された朝鮮戦争、ベトナム戦争によって、それぞれ数百万を超える人命が失われました。アフガニスタン、イラクへの侵略でも何十万という命が失われました。在日沖(日本沖縄)米軍のこの侵略行為は「国の交戦権は、これを認めない」(憲法9条)という最高法規・憲法に違反する、日本政府が加担した戦争であり、在日沖米軍は「これを保持しない」と規定した日本「政府の行為による」戦力そのものです。(1959年3月東京地裁伊達判決)

原発、集団的「自衛」権、秘密保護法、TPP、消費税(思いやり予算や軍事費にも使われる)などどれ一つをとっても、対米従属からくるものであり、その悪政の根源は、実体的には、全土基地方式の支配を

行っている世界に類例のない世界最大の米軍基地権力に由来するものです。

全土基地方式の全基地閉鎖、占領の終結、主権の回復、属国から独立国になる以外に日本民族が、尊厳を持って平和に生きる道はありません。

どんなに遅くともどんな困難があろうとも、あと11年後(2025年)の米軍占領80年までには、草の根運動は、日本沖縄民族の良心を結集し、貴団体の御地でのご協力などにより、「超党派の基地をなくす個人加盟の全国組織」を作りたいと、考えています。1960年代にゼロから出発した沖縄返還同盟結成の成功の経験はそれが可能であることを証明しています。

どんなに遅くともあと21年後2035年米軍占領90年までには、この基地をなくす個人加盟全国組織もふくめた政党、団体、個人によって、基地をなくす政府を樹立するための共同統一戦線をつくる決意です。この共同統一戦線は、全米軍を撤退させるために、戦争戦力日米条約(いかなる意味でも国民の安全を保障していない条約を「安全保障」条約と呼ぶことはできません)を廃棄通告する、「基地をなくす政府」樹立の基礎となる力です。

どんなに遅くともあと31年後2045年米軍占領100年までには、この共同統一戦線を基礎とする「基地をなくす政府」を樹立しなければなりません。そして、恥ずべき外国軍の支配から祖国ふるさとである日本沖縄を解放しなければなりません。これこそが、誇るべき日本国憲法を実現する道です。日本沖縄人民はそれをやりきる力量を持っています。

基地をなくし憲法を実現する政府をつくる共同統一戦線形成のために、日本全国の職場地域学園に組織を作り、「米軍が日本を守っている」などと言う全く倒錯した偽りを宣伝し続ける、右傾化したマスコミに抗して、主権回復と憲法実現の世論を作るならば、基地をなくす貴党の前進や共同統一戦線勢力の前進によって、国会状況も大きく変化させ、基地をなくす政府へと大きく前進することは全く可能です。

貴都道府県におかれましても、基地をなくす個人加盟の全国組織の都道府県本部(都道府県の会)にあたる会をつくろうという市民国民の努力を、超党派でご援助頂けるよう心からお訴えいたします。「集団的自衛権」容認と辺野古など新基地建設を阻止し、今年を、祖国日本の主権回復、沖縄県など都道府県地方自治確立へ始動の年といたしましょう。

2014年9月8日

安倍内閣打倒の展望を切り開く、辺野古新基地阻止、沖縄県知事選の闘いの渦中で

沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動

運営委員長 平山基生

(この手紙は、基地をなくす政党である沖縄県社会大衆党、共産党、社民党、新社会党へお送りしています。)

追伸

「草の根ニュース」82号第 1 部(上)沖縄の旗印である2013年1月の「建白書」を再度掲載しております。大事な文章ですので、お読み頂けると幸いです。また、「草の根ニュース」82号第 1 部には、「日本における独立の問題」(上原

草の根ニュース84号 2014年12月28日 2015年は米軍の日本沖縄占領70年 号 占領70年の2015年を主権意識目覚めの年に
「平和的で責任ある政府が樹立されたとき、連合国の占領軍は、直ちに日本国から撤退しなければならない」(ポツダム宣言)。「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」(憲法前文)

専祿元一橋大学学長)を紹介しております。

「基地なくす九条しんぶん」8号には、全土基地方式を解明した『憲法より大切な日米地位協定入門』紹介を掲載しております。ぜひご一読下さい。また、同じく、同上「九条しんぶん」8号には、「米軍は違憲の戦力」であると断じた有名な「伊達判決」を優しく意識掲載。伊達判決は、基地をなくす運動にとってとても大事です。是非ご一読ください。

同封の「オスプレイ反対、普天間基地閉鎖、辺野古高江新基地阻止」署名用紙もご活用ください。

また、沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動 入会案内もぜひご利用のうえご入会を心からお待ちしております。

その他、沖縄カンパの要請、砂川判決再審請求署名用紙、沖縄ツアーちらしなど同封いたしました。ご活用のほどをよろしく願いいたします。

基地なくす政党地方組織責任者などへ葉書

草の根運動は、基地なくす諸政党の地方組織にも葉書を送り、支援を訴えました。葉書の内容は次の通りです。

オナガ雄志 予断ゆるさず

緊急！沖縄県知事選

日本の一県に永久的 新基地断じて許すな！
全「日本沖縄」国民の力で必ず押し上げを
尊敬する 基地をなくす政党のみなさま

I オナガを必ず押し上げるために次のことを、緊急に
お願いできれば幸いです。

1. 激励文、激励などを「平和・誇りある豊かさを！

ひやみかちうまんちゅの会」FAX098-951-3525、
TEL098-951-3558 へ集中して下さい。

2. カンパをできる限りお送りください。(沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動 郵便振替口座 00190-5-611535)
3. 人をできるだけ派遣して下さい。
4. 沖縄県にオナガ支持の電話をお願いします。

II 「オスプレイ撤去・普天間基地閉鎖および辺野古・高江新基地建設反対署名」を国民的規模で集めましょう。このことが、オナガを押し上げる世論という力を創ります。(用紙は前に送付。再送付も可。

III 基地をなくす超党派の個人加盟全国単一組織を職場地域学園から市区町村、都道府県に創りましょう。基地反対の諸団体も賛同団体または会員団体として加盟できるようにすることも一案です。属国日本は我慢できません。

日本沖縄の歴史にかつて無かった70年というこれほど長期の外国軍占領をやめさせる憲法政府樹立へ全力を。



首里東で翁長当選を祝う関係者

「圧勝」論を「必勝」論で引き締め

草の根運動は、今回の選挙で最も重視したことは、「楽観論」によるオール沖縄「建白書」勢力のゆるみでした。

選挙というものは、どんなに強い候補者であっても、ひとたび「楽観論」で陣営が緩んだとき、横綱が下位力士に敗れることがあるように、必敗と言ってもいいほど厳しいものであることを訴え続けました。

草の根運動ホームページでも「オナガ 予断許さず」と警鐘を乱打し続けました。その内容は、次に掲げる「草の根ニュース」83号編集後記の内容です。

「まさかオール沖縄のオナガが負けることはないだろう」と支持者たちの九割は思っているでしょう。大田知事選の時も、伊波洋一候補の時も、多数の人たちがそう思っていました。私は、伊波候補の時、「このままでは必敗だ」とメーリングリストに書いてだぶ叱られました。選挙の怖さはそこにあります。自民党支持の人まで、「がんばって下さい」と活動家にいう情勢。しかし、そういうことを言ってくれる人が投票に行かない。なぜなら、大丈夫だと思っているから。今回の選挙は負けられない選挙ですが、今のまま大丈夫論を克服できなければ、必敗です。「圧勝」などと言うのは禁句です。「辛勝」でも一票でも相手を上回って勝利を勝ち取るために、やるべきことを死に物狂いにやりぬきましょう。」

草の根運動の沖縄県での活動

草の根運動運営委員長平山基生さんは、基地をなくす活動のために、那覇市に家を借りて毎月東京都と沖縄県を往復しています。草の根運動国際委員長小湊忍さん（大阪在住）

は、8月、10月と沖縄県で活動し、辺野古での座り込み名護市議会議員選挙の応援などをしました。沖縄現地の会員は、共同代表池宮城紀夫弁護士をはじめ、基地をなくすいろいろな活動でがんばりました。

沖縄県での選挙運動の状況は、翁長雄志氏が沖縄県知事選挙候補者に確定した後、「オール沖縄」の翁長雄志候補の選挙運動団体「平和・誇りある豊かさを ひやみかち うまんちゅの会」を中心に行われました。草の根運動は、沖縄県会員とともに、うまんちゅの会事務所を訪れ、全国から集まったカンパを手渡しました。事務所で、ビラ折りなどの実務、街頭演説会への参加、ビラまき、朝、昼、夕と幹線道路で行われるドライバーへの手振り、1軒ごとへのチラシいれ、電話作戦など多彩な活動を行いました。

ある選挙事務所では、前回知事選挙の時は本土からの支援オルグは2人でしたが、今回は24人でした。

今回の翁長新知事の誕生は、沖縄県民が勝ち取った勝利ではありません。しかし、熱い全国的な支援がなかったら勝利できたかどうか。

翁長雄志氏は、「辺野古に新基地を作らない」という要求を代表しています。それは、単に、沖縄県民の要求であるだけでなく、新基地ノー、基地をなくして米軍占領を終わらせ日本の主権を回復し憲法を実現したいというすべての国民の願いにつながるのです。すべての日本沖縄国民の代表と言うこともできるのです。

沖縄はすごい！

11・16 沖縄では、辺野古基地建設反対の一点で保革、左右の垣根を越えて「オール沖縄」で、県知事選挙で翁長さんが10万票差で勝ち、那覇市長選挙で城間さんがダブルスコアで圧勝し、県議補選でも翁長支持会派が二人勝利したのですが。

そうした連帯と共同の輪が国政選挙でも実っているようです。

個人的な思いとしては、総選挙では安倍政権打倒のためには、比例では共産党に入れるにしても(いや、社民党でもいいですけど)、小選挙区ではどこに入れるか悩ましいところがあるかもしれないけど、

沖縄はすごい！

共産党は全選挙区に候補者を立てる方針だろうけど、なぜか沖縄は決まっていなかったんですが、

http://www.jcp.or.jp/akahata/aik14/2014-11-20/2014112007_01_0.html

さっき、小池晃政策委員長がフェイスブックで拡散していた沖縄タイムスの記事では、こんなことだそうだ。

これって、画期的。

オール沖縄で県知事選挙をたたかった経験から、共産党、社民党、生活の党、そして翁長支持のおそらく無所属候補の擁立という、辺野古基地建設反対という一点共同での選挙協力が進んでいるということだ。

本土でもできないものか？

まあ、今回の総選挙では無理そうだけど、反動政権を打倒するためには、保守であろうと左翼であろうと、安倍政権よりましな政権を実現するために、有権者の関心を高ぶらせるような大胆かつ柔軟な構想をぶってもらいたいなど、ぜひ頑張ってもらいたいと思うこのごろです。

なにせ、安倍首相の思惑は、野党はバラバラでまとまりないし、マスコミも「争点がない」とか有権者をしらけさせて、投票率が下がれば、ウチワやワインを配った支持者の組織票で過半数はとれるわ、っていう皮算用でしょうし。

ま、ともあれ、野党のていたらくはいつものことなのだが、与党も野党もどうしようもないのは有権者の私たちの責任でもあるし。

私たち市井の人間がよりよき生活のために、よりよき政治をどうするか、そんなことを考えて投票に行こう、安倍政権を懲らしめようということに訴えるしかないかな？

野党も与党の政治家も「政治のために生きる」よりも、「政治によって生きる」人たちの見苦しさが目立つが、少なくとも沖縄の人々が推挙した候補者が前者の人たちだろう。

せめて沖縄では自民党候補者をすべて落選できれば、安倍さんの胃痛が激しくなることだろう。あ、これ言いすぎかな？

もう一つ言い過ぎましょう。共産党はじめ野党も沖縄の教訓を本土で活かす努力をしてほしいなあ……

<http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=91438>

=====
翁長氏支持勢力、衆院沖縄全4区で擁立へ
2014年11月20日 18:59

衆院が(11月)21日に解散するのを前に、知事選で初当選した前那覇市長の翁長雄志氏(64)を支持した保革の枠組みを超えた「建白書」勢力は20日、総選挙に向けた初会合を開き、沖縄県内全4選挙区に米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に反対する候補者を擁立する方針を決めた。

1区は前回選挙区から出馬し比例復活した

赤嶺政賢氏＝共産、2区は現職の照屋寛徳氏＝社民、3区は前回選挙区から出馬し比例復活した玉城デニー氏＝生活＝をそれぞれ支援することを決定。4区は辺野古移設反対を堅持する候補者を無所属で擁立するとし、同日に選考委員会を立ち上げた。(岡林信一)

(編集部注、その後沖縄4区には、元沖縄県会議長元自民党の仲里利信さんを候補者に擁立することが、「オール沖縄」うまんちゅの会で決まりました。選挙結果は、全候補当選。自民候補は全敗。比例で自民4人と維新から出た候補一人が復活当選。沖縄県からの議員9人に。)

「統一」にむけての長年の努力から冷静に「学ぶ」必要

「沖縄はすごい」たしかにそうですが、それにいたる現地の取り組みとくに「統一」にむけての長年の努力から冷静に「学ぶ」必要があるのではないのでしょうか？本土においても草の根からの統一戦線の条件、種子を育てるにはどうしたらよいか、という議論が不可欠と考えます。そうしないと沖縄の教訓を真に「学習」することにはならないでしょう。持続的なテーマとして建設的な議論が選挙後も続くことを期

待しています。その一環として、これまでの統一戦線についての議論の成果と課題を明らかにする取り組みも不可欠でしょう。この点ではドイツ左翼党の「学習期」という自己認識をふまえれば、我が国の統一戦線を期待する草の根民主勢力にとっても「学習期」といえるでしょう。沖縄では「学習期」から「実践期」への質的転換の萌芽が見えてきたと考えます。今後とも建設的な問題提起を期待します。(松田博)



左・上 新聞・テレビなどマスコミ各社の報道

米軍、Xバンドレーダーを搬入 京丹後、数十人が抗議活動

<http://www.47news.jp/CN/201410/CN2014102101001105.html>

米軍は(10月)21日未明、京都府京丹後市の米軍経ヶ岬通信所に、ミサイル防衛用の早期警戒レーダー「Xバンドレーダー」を搬入した。防衛省によると、年内に本格運用が始まる見通し。

通信所周辺では「米軍いらん」「搬入強行断固反対」などと書かれたプラカードや横断幕を持つ数十人が抗議活動を行った。

経ヶ岬通信所は近畿地方唯一の米軍基地。Xバンドレーダーの配備は青森県つがる市の車

草の根ニュース 84号 2014年12月28日 2015年は米軍の日本沖縄占領70年号 占領70年の2015年を主権意識目覚めの年に
「平和的で責任ある政府が樹立されたとき、連合国の占領軍は、直ちに日本国から撤退しなければならない」(ポツダム宣言)。「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」(憲法前文)

力通信所に続き2カ所目となる。22日に、運用を担当する米陸軍第14ミサイル防衛中隊の発足式を経ヶ岬通信所に隣接する航空自衛隊経ヶ岬分屯基地で行う。

2014/10/21 10:29 【共同通信】

【緊急抗議行動】米軍Xバンドレーダー本体の搬入強行糾弾！京都市民は京丹後経ヶ岬での米軍基地建設を許しません！緊急抗議行動（四条河原町）

<https://www.facebook.com/events/389856454504481/>

本日早朝、米軍Xバンドレーダー本体が米軍経ヶ岬通信所へと搬入されました。これに抗議する緊急抗議行動（街頭アピール）を本日夕方、四条河原町で行います。本当に緊急の行動ですが、参加できる方はご参加下さい。

呼びかけ：

米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会・共同代表 大湾 宗則

<https://www.facebook.com/pages/米軍xバンドレーダー基地反対京都連絡会/>

日時：2014年10月21日（火）午後6時～7時

場所：四条河原町マルイ前

<http://www.553110.info/shop686/map.html>

★本日、経ヶ岬現地での緊急抗議行動に京都から参加したメンバーがこの抗議行動に駆けつけて現地報告をします！

【京都新聞】米軍Xバンドレーダー搬入開始 小松基地から京都・京丹後へ

<http://kyoto-np.co.jp/politics/article/20141021000013>

米軍経ヶ岬通信所へ向けて航空自衛隊小松基地を出発したXバンドレーダー（20日午後9時7分、石川県小松市）

米軍経ヶ岬通信所（京都府京丹后市丹後町）に配備されるミサイル防衛用移動式早期警戒レーダー「Xバンドレーダー」の本体を搭載したトレーラーが20日夜、航空自衛隊小松基地（石川県小松市）を出発した。21日早朝にも陸路で同通信所に到着する。同通信所は近畿地方で唯一の米軍基地で、搬入完了に伴い、12月からのXバンドレーダー本格運用へ準備が加速しそうだ。

20日午後9時すぎ、パトカーに先導され、米本土から空輸された長さ約13メートル、重量約34トンのTPY-2レーダー本体の搬送が始まった。一般道の信号はすべて青信号に切り替え、厳重な警備態勢で京丹后市へ向かった。

一部の市民団体や住民団体は、京丹後に米軍レーダーが配備されることに反対し、レーダーによる環境への影響や基地建設についての情報公開の不十分さを指摘している。

レーダー搬入について、在日米陸軍司令部広報室（神奈川県・キャンプ座間）は「保安上の理由により、装備の移動方法や予定日時を公表することはできない」と、京都新聞の事前取材にコメントしていた。

防衛省によると、Xバンドレーダーは弾道ミサイルの探知や追尾に特化したレーダーで米が開発した。日本での配備は2006年6月の米軍車力通信所（青森県つがる市）に続いて2基目。

在日米軍は22日、米軍経ヶ岬通信所開設に伴う米陸軍第14ミサイル防衛中隊の発足式を予定している。ジェイソン・オルブライト司令官以下、軍人・軍属約160人が任務に就くとされる。

【2014年10月21日 07時15分】

京丹後現地で（本夕、京都市内でも緊急抗議アクション）：米軍、Xバンドレーダーを搬入 京丹後、数十人が抗議活動

〈詩〉

カサブランカ

あ・け・み

椅子を引き寄せ
じっと見る

花びらの
縁をなぞってみる

雌しべの先端には一滴の水滴が
枝の周りには気泡が積み重なり

花びらが透き通ってくる
一片一片の翳りが見える

心の襞を広げるように
描いて行く
カサブランカ



【会員・読者からの便り】

阪井律子さま（旭川市） 選挙カンパです。

日本共産党静岡地区大里支部代表北野樹雄（静岡市）さま 翁長さんの勝利で沖縄と日本の未来を切り開こう。

藤井悠紀子さま（港区） 翁長雄志さんの立候補に希望を託し、ご健闘をお祈りいたします。

植竹伸一さま（那須塩原） 知事選募金に！

安倍晴彦さま（元裁判官） 選挙カンパ

城口順二さま（川口市） 賛同会費 2口5000円、11/4～11/8 まで沖縄訪問し、選挙支援します。

金崎昭三さま（弘前市） オナガさんの勝利をめざして、カンパ

角田淑恵さま（鎌倉市） 些少ですがお送りします。

須田稔さま（宇治市） 選挙支援のカンパとして、些少ですが、

山本嘉子さま（小金井市） 沖縄県知事選挙へのカンパです。

高畑直司さま（恵庭市） 会費及びカンパ

小久保武さま（上尾市） 知事選挙カンパ

寺崎美恵子さま（蓮田市） 選挙カンパ

遠藤やす さま（市川市） 沖縄の基地をへらすため どうしても オナガさんの必勝を祈っています。

外間千子・篤子さま（大田区） 沖縄の空、海、山原、生命を「命どう宝」で守りましょう。米軍基地を作らせない為に頑張りましょう。カンパ5000円お送り致します。

坂井よう子さま（足立区） 先日、足立で「標的の村」をみました。知らされていないことばかりだしモーレツな怒りで爆発しそうでした。人間をにんげんとも思わない差別意識とこんなことは許させない人権侵害と思います。あかはたまつりで長野の友人が、これ観たいと思っていたのとテントの人に署名を訴えてくれました。近くの友人が、地域で上映したいから問い合わせしてみると言っていました。もっともっと輪が広がると良いですね。ごくろうさまです。（編集部より、坂井よう子様は70人の署名を送って下さいました。）

鎌田由利子さま（足立区） 沖縄県知事選カンパをお送りします。10/17 に職員組合で「標的の村」上映会をして集めた署名は、別便でお送りします。

樋口兼久さま（青梅市） 沖縄知事選賛同金（翁長候補勝利）

笛木昭さま（さいたま市） 九条の会、地元政党といろいろ各方面の義理と義務があり、不十分で申しわけありません。

松永育男さま（藤枝市） 通信費だけで失礼します。知事選カンパ1000円

中村博さま（世田谷区） 何としてもガンバリましょう

安田訓明さま（名古屋市） 沖縄知事選カンパ、米軍のいない日本を！！

三井美佐子さま（川口市） カンパ少しですが一 必勝を祈っています。

土井清さま（さいたま市） いつも、大変にご苦労様です。

越川綾子（港区） 草の根の運動微力ながら応援したいとお届け送金の次第です。

林春美さま（府中市） 署名お届けします。前にも同じのが来たような気がするのですが、ダブっているかもしれません。返信等お気づかいはけっこうです。

（足立区職女子部あらぐさから）鎌田由利子さま 「標的の村」上映会（10月17日足立区職労主催）で署名を集めました。他に、知人の坂井さんから、50筆ほどお送りしたいと思います。（カンパも同封してあります）



投票日前日朝の街頭宣伝

編集後記 来年2015年は、米軍占領70年です。日本沖縄の歴史で、これほど長期に全土基地方式で陸はもちろん空も海も外国軍に占領されたことはありません。中国や北が攻めてくる以前に現在、現に米軍が日本沖縄に攻め込んで70年になるのです。重要なことは、日本人が頭の中まで占領・洗脳されて、私たちの国が占領されていることすら気がつかず、怒りもない極めて深刻な現実をどう変えるか、と言う困難な問題です。基地をなくすと言うことは、日本沖縄人の主権人権自治意識をどうしたら目覚めさせることができるかと言うことと深い関連があります。

草の根運動運営委員会は、占領70年を機に、全力で国民に事実を知らせる紙の媒体を印刷するために、100万円の複合機（印刷機）を、募金によって導入することを決意しました。その導入の実務の遅れもあり、総選挙結果が出る前の選挙中に発行する予定がおくれました。総選挙結果だけが記事になったのはその為です。自公安倍政権の議員が大量に当選しました。それは私たちの決意を固めさせるだけです。

沖縄報告 2014・12・16記

安倍政権へ痛撃

—沖縄県知事・衆議院議員選挙圧勝

共同代表 池宮城 紀夫 (弁護士)

沖縄人民は、戦争する国へひた走る安倍自民党・公明党政権へ痛撃を食らわしました。

本年1月19日の名護市長選挙で、辺野古、高江基地建設反対の稲嶺進市長を誕生させ、去る11月16日には、県民を裏切って安倍政権に屈した仲井真現職知事を約10万票の大差で「辺野古基地絶対反対」を最大の公約とした翁長雄志氏を圧勝させました。そして先日(12月14日)の衆院選挙では、4選挙区で翁長雄志知事を誕生させた勢いで、辺野古基地建設反対を公約に、1区では共産党の赤嶺政賢氏、2区では社民党の照屋寛徳氏、3区では生活の党の玉城デニー氏、4区では辺野古基地建設反対をして自民党から除名された元自民党県連幹事長の仲里利信氏を当選させました。辺野古基地建設反対を公約して当選したにもかかわらず、安倍政権によって恫喝され辺野古基地建設容認に転じた自民党の4名の候補者全員を選挙区で落選させたのです。

当選した4名の皆さんは、それぞれ所属する党が異なっているので、沖縄の人民は4名を何故当選させたのか、ヤマトの皆さんからは考えられないことかと思われまます。

その鍵は、日米同盟の名のもとに沖縄に約75パーセント(編集部注、草の根ニュー

ース74号10ページ参照)の米軍基地を押し付け更に絶滅危惧種のジュゴンはじめ極めて貴重な生物群が生息している海を埋め立てて米軍の基地を建設する日本政府、安倍右翼政権を絶対に許せない、この思いで従前自民党を支持してきた県内大手の金秀グループの会長や大手観光グループ企業の代表と地元政党の社大党、民社党、共産党、生活の党などが「オール沖縄」党として大同団結して翁長知事を誕生させたのです。そして「オール沖縄」という人民の怒りと抵抗の力が衆議院選挙で我われの4名の候補者を圧倒的な票で当選させたのです。団結と統一は力なり！で実現したのです。

翁長知事は当選のコメントで次のとおり述べました一質問・最も支持された点はなにか「県民のアイデンティティーという訴えだと思う。今も続く基地の重圧に対し『オール沖縄『保革を超える』との考え方が支持を得たのではないか、新たな希望を県民が託した。

新しい歴史の一ページとして基地問題解決や自立した経済の発展に向けて頑張る』と。

安倍総理は、沖縄の圧倒的な民意を無視し「辺野古の県外移設を考えるのは時間の無駄だ！」と衆議院選挙後の会見で言い放ったのです。このような人物を総理に選ぶ大方の国民の精神的墮落に呆れるばかりです。これまで以上に沖縄を、翁長県政を押しつぶしにかかってくるでしょう。でも我われ沖縄の人民は徹底的に反撃していく。本土の皆さん、直ぐ目の前に憲法改悪が来ていますよ、目を覚ましませう！！